

【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】
（肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

作文部門 小学部

「みんなで文化祭」

北海道手稲養護学校 小学部 六年一組

山本 那奈

十月十九日、手稲養護学校の体育館で文化祭が開かれました。

やった劇の題名は「窯修理大作戦！〜5・6年生の大ピンチ〜」です。

本番は、お母さんとお父さんが見にきてくれました。練習は十月三日から始まりました。練習の最初の方では、声が出なかったり台本を見ながらセリフを言ったりしました。練習を重ねていくうちに台本を見ないで、セリフを言えるようになっていきました。動きも最初は先生と一緒に確認しながら動いていましたが、少しずつ自分で分かってきました。練習の中盤に動きやセリフが増えていきました。私は最後の場面に石のブロックを机に置いたり、「やったー。これで陶芸体験ができるね！」というセリフや動きが増えましたが、みんなの動きやセリフを覚えていたので、スムーズにやることができました。総練習では、本番と同じような動きやセリフをやりました。総練習の前日に劇的一幕で「はじまりのあいず」と

いう曲でダンスすることになりました。新しい動きが増えたり、全校児童生徒に見られたりして緊張しました。自分では、自分の役割を上手に果たすことができたと思います。

本番の前日は、五・六年二組で総練習の映像を見ました。セリフを言う時に動きも入れたほうが良いと思って先生と相談して入れようと思いました。私はセメントと水の割合を比で表す場面で計算に時間が思っていたよりかかっていたので、もう少し早く計算したいと思いました。なので、友達に早く答えを書いてもらうために、式をなるべく早く伝えようと思いました。文化祭当日、劇が始まる前までは、そわそわとかドキドキする気持ちでいっぱいでしたが、私達の劇が始まってからは、緊張がほぐれていってどんどん楽しくなっていきました。最初は、自分のセリフで始まりました。最初だったので緊張しましたが家族が声が出ていたよと褒めてくれたので良かったと思います。見せ場のセメントと水の割合を比を使って計算する場面では、式をなるべく早く伝え、友達と協力して計算をスムーズにすることができました。終わってからは、とても楽しかったと思うほど良かったと思います。

今回、たくさんの方の前で発表した経験を、今後地元の小学校である学習発表会の舞台でも生かしていきたいと思いました。

【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】
（肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

作文部門 中学部

「野球大会でコケた事」

北海道真駒内養護学校 中学部 二年

松澤 嘉勇

それは、一瞬で頭が真っ白になるような一日でした。その日は、ゴロ野球の大会で楽しく野球をしていました。午後四時過ぎ、私は三位、四位決定戦を体育館のステージ上で観戦していました。その後、決勝戦になり、出番が来てステージからスロープを使い、後ろ向きになって自分で降りようと思いました。その時、ブレーキを掛けながら降りたため慣性の力が働き、前輪が浮き、さらにブレーキを掛けようと思いました。しかし、うまく掛けることができずそのまま勢いよく後進、後ろの転倒防止バーがスロープの終わり地点に引っかかり、後ろに九十度回転、そのまま真上を向く形で転倒しました。その瞬間、私は頭が真っ白になりました。直後、他のお父さん、お母さんやコーチが駆けつけて「大丈夫？」と声を掛けてくれました。その後、そのうちの一人が担架を持ってきてくれて、そのまま担架に乗せてもらい保健室まで移動しました。

保健室のベッドに乗り移り、救急車が来るまで待つて

いました。その間私は、決勝戦にできることができなかつた悲しい気持ちと、悔しい気持ちでいっぱいでした。

五分から十分程度で救急車が到着し、母と救急車に乗って病院まで行きました。救急車に乗っている間も、私は悲しい気持ちと悔しい気持ちでいっぱいでした

病院に着くと、すぐにCT検査を受け診察、幸い異常は見られなかったため、そのまま家に帰りました。

その後、家族と今後のことを相談しました。これから、もしも急なスロープがあつて、周りに大人の人がいれば、押ししてもらったり、支えてもらうようお願いしようと思いました。また、周りに大人がいなくおのりたため、スロープの登り方、降り方を自立活動の先生や周りの友達、ゴロ野球の先輩に聞いてみようと思いました。

【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】
（肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

作文部門 高等部

「十二年間を振り返って」

市立札幌山の手支援学校 高等部 三年

松金 心美

私はこの山の手に入学してきて十二年間も経ちました。小学校一年生の入学式はとても緊張しました。母と

手をつないで入学したのを覚えています。小学部では、勉強も学校も大好きで色々なことをがむしやりに頑張っていました。五年生になると勉強も難しくなり、学校や勉強が辛いものに変わっていききました。しかし、六年生になると好きな先生が担任になり、毎日の学校生活が楽しくなっていきました。あつという間に小学校六年間が終わりました。小学部では普段、喧嘩をしたことがなかったけれど学校の友達と喧嘩してしまい、そこで改めて友達の大切さに気づくことができました。

中学生になって勉強が難しくなりました。提出物も増え、家でやる勉強が多くなり毎日が大変でした。一年生では入院生が増え、様々な出合いがあり、学校生活がとても充実していききました。入院生の友達と休み時間に一緒に遊んだり、学校祭準備をしたことが思い出に残っています。三年生では進路のこともあり、色々なことを考える一年でした。面接練習では、自分の思うように話せなく、家で何度も練習をしたり、先生にアドバイスをもらったりすることですらすら答えられるようになっていきました。受験前日に先生から応援メッセージをもらい、当日は緊張がほぐれ、今までの成果を出し切ることができました。

高等部になり、一番の思い出に残っているのは、学校祭です。自分の思うようになく、泣いた時もありました。その時は先輩に相談しアドバイスをもらい前向きに頑張ろうと思いました。最初はとても緊張しました。

しかし、みんなが盛り上げてくれたので自然と緊張もほぐれ、楽しむことができました。学校祭では自分の意見をはっきり伝える大切さを学ぶことができました。勉強では中学部でなかった「キャリア探究」の授業で、自分の将来について考えたり、学んだり、色々なものを作ったりしています。この授業を始めてからパソコン入力が早くなったりスライド作りが早くなったりと成長を感じることができています。この授業で学んだことを活かして将来に繋げていきたいです。

この山の手で過ごした十二年間は長いようで短い学校生活でした。十二年間もいたので、この学校一つ一つの行事が最後になっていくのを実感し、先生方や友達と会えなくなることを考えるととても寂しく悲しいです。これから残りの学校生活の一日一日を大切にしながら頑張っていきたいです。

【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】
（肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

朗読部門 小学部

「がくしゅうはっぴょうかい」

北海道拓北養護学校 小学部 二年

反保 晴希

きょう、たいいくかんでがくしゅうはっぴょうかいの
ほんばんがありました。

しほさんにベルをもらったときに、「ありがとう」とい
うのをがんばりました。

まあまあおおいこえでいえました。がんばりました。

【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】
（肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

朗読部門 中学部

「より良い社会とは」

北海道拓北養護学校 中学部 三年

高根 杏季

バリアフリー化が進められている現代ですが、より良
い社会にするためには私はまだまだ課題があると思いま

す。

例えば、車椅子の人や身長が低い人は買い物に行った
時に高い所にある商品が取りにくいです。こういった人
達にとつては、商品棚自体を低くしてほしいと思います。
ですが、本当に商品棚を低くしてしまうと今度は身長が
高い人はいちいちしゃがまなきゃいけなくなって大変で
す。私は、車椅子なので商品棚をなるべく低くしてほし
いと思いますが、身長が高い人のことを考えると正直一
人で考えるのは難しいことだと思います。そこで自分の
意見をまわりの人に伝え、他の人の意見も聞き、話し合
うことが大切だと思います。そうすることで、必ずとい
うわけではありませんがきっと、誰にとつても暮らしや
すい生活になると思います。

このように、私はさまざまな立場の人がそれぞれ困っ
ていることを話し合い、一緒にその解決策を考えること
がより良い社会につながると思います。

【知的障がい特別支援学校の部 小学部】

「あさがおのはっぴょう」

北海道紋別養護学校 小学部 三年

辻村 恭佑

これからぼくのはっぴょうをはじめます。

とつぜんですが、もんだいです。

どっちのはながあさがおのはなでしょうか？

せいはいは、こつちです。

きょうはぼくがそだてているあさがおについてはっ
びょうします。

はじめに、あさがおのせいちょうきろくです。

6がつにたねをうえました。

あつというまにめができました。

めがでてからふたばができました。

どんどんつるがのびてきました。

つるがのびてきたのでしちゆうをたてました。

なつやすみがおわってがっこうにくると、はながさい
ていました。

いまははながさきおわって、かれてきました。

たねをとるのがたのしみです。

つぎはあさがおのはなでいろみずをつくって、ほかの
いろみずとまぜるけんきゆうをしました。

ここでもんだいです。

あさがおのいろみずとしろいいろみずをまぜるとな
にいろのいろでしょうか？

せいはいはうすいびんくです。

もう1ももんだいです。

あさがおのいろみずとくろいいろみずをまぜるとな
にいろになるでしょうか？

せいはいはくろです。

こんごはあさがおのつるをつかってくりすますりー
すをつくるよていです。

これでぼくのはっぴょうをおわります。

【知的障がい特別支援学校の部 中学部】

「じゅけんむけて」

北海道美唄養護学校 中学部 三年

齊藤 未由

中学生にはいつてから山口せんせいとであつてたの
しいことやかなしいことをいろいろとけいけんしてきま
した。

中学二ねんせいするとき、かなしいことやうらたきせん
せいがいなかったりしてかなしくなりましたがでもそれ
をのりきつてがんばってしんきゆうしようががんばって
べんきようをしました。中学二ねんせいをおわるときに
は、とてもうらたきせんせいとわかるのがさみしかつ
たけどのりきつておわることができました。

中学三ねんせいにあがるときは、たんにんは、だれだ
ろうときんちようするとかおもいました。がっこうにき
てたんにんをみつけたら、山口先生だったので。さい
しよは、てんしよんがたかくてきんちようがほぐれたか
んじだった。つぎにすすむのがはやいと山口せんせいは

いいました。未由は、おそくかんじましたが、山口せんせいにはあつてたのです。未由のじゅけんは、どこにするか、かんがえてうりゆうにするといいました。でも、もつともつとがんばらなきゃいけないことがいっぱいでした。

わたしにたりないところは、ありがとうをつたえられていないところです。

これからがんばることは、いっぱいありがとうをつたえることと、けいごをつかうことです。

じゅけんにもむけてもがんばります。じぶんをだいにしてみんなのあんぜんをまもれるようにがんばります。これからも山口せんせいとのりきります。

【知的障がい特別支援学校の部 高等部】

「体育大会を終えて」

北海道雨竜高等養護学校 高等部 三年

坪谷 歩武

六月十四日、学校生活最後の体育大会が行われました。私は「百メートル走」「玉入れ」そして、「サイコロでGO」の運営スタッフとして参加しました。百メートル走は、百メートルを全力で走ってタイムを競う競技。玉入れは、一分間に紅白の玉をカゴに何個入れられるかを

競う競技。サイコロでGOは、障害物リレーのことでサイコロを振って出た目の障害物を乗り越えてタスキをつなぐ競技です。

百メートル走に向けて私は、組で一位を取ることと楽しんで取り組むことを目標にしました。目標を達成させるために一番頑張ろうと思ったことは、スタートダッシュです。スタートダッシュを良くすることで少しでも他の人より前に出て一位を取りたかったです。スタートダッシュのやり方は、学校での授業だけではなく、週末に寄宿舎から帰省した際、デイサービスで体育の教員免許を持つている先生にも教えてもらいました。デイサービスの先生には、スタートの構えの時のお尻の高さは高すぎず低すぎず、自分の辛くない位置が良いというアドバイスをもらい、意識しながら練習に取り組んできました。

そして、当日の百メートル走本番。いよいよ私の走る順番となりました。「オンユアマーク」「セット」「バン！ピストルの合図と同時にスタートした瞬間、なんと足が滑ってしまいました。そのため、良いタイムを出せず、目標としていた一位も取ることができませんでした。最後まで諦めず全力で走り抜くことができたので良かったです。

続いて玉入れの準備、練習で頑張ったことは、チーム全体で目標として定めた二百三十個の玉、全てを入れることと声出しです。練習では「今、風があるよ。」「風が

【全国盲学校弁論大会北海道代表作品】

「Magic Together」

北海道札幌視覚支援学校 高等部普通科 三年

佐々木 大輔

ないからチャンス！チャンス！」などみんなで声を出し合って協力してできました。また、みんなで話し合い、玉を投げ入れる係と玉を掴みやすい位置に運ぶ係に分かれるという作戦と玉を投げ入れる人は、たくさん持って頭の上から投げるといふ作戦を立てました。

当日は、残念ながら昨年同様に二位という結果でしたが、練習と同じようにみんなで声を出しながら、作戦どおりに取り組んだ結果二百個以上の玉を入れられたので良かったです。

サイコロでG Oの運営スタッフとして準備練習で頑張ったことは、競技に参加している人に順番をしっかりと確認することとサイコロで出た障害物の種類を示す表示を落とさないように気をつけることです。表示を持つのは気をつけながらやりましたが、それでも何回か落としてしまいました。大会当日も落としてしまわないかと不安でしたが、落とさずにできたので良かったです。順番の確認も間違えることなくできたので、競技をスムーズに進行させることができました。

私は、この体育大会をとおして、結果には結びつきませんでした。諦めずに取り組み続けることで自分に自信を持つことができるといふことを学びました。何事にも挑戦し諦めずに取り組む気持ちをこれからも忘れずに学校生活を過ごし、立派な社会人になれるよう頑張っていきたいと思います。

ドトール。タリーズ。マクド、モス。そしてコンビニ。あなたの、お気に入りのコーヒーストックは、どこですか？私のお気に入りには、スターバックス・コーヒー。そう、スタバです。スタバは、他のコーヒーストックとは全く違うと思います。スタバは、珈琲の味だけで、勝負しているわけではないと、私は思うのです。もっと、「特別な価値」を、一人一人のお客さんに届けている。そう思うのです。

そもそも、どうして、私はスタバから「特別な価値」を感じるのでしょうか。今年の春先に、こんな出来事がありました。妹が札幌の高校に進学しました。家族で、札幌に引っ越してきました。母も、妹も新生活に疲れていました。そして、ちよつぱり私も。「スタバに行つて、珈琲でも飲もう！」と、私は家族を誘いました。

店内に着くと、私も疲れが押し寄せてきました。ぼんやり、言葉もなく、白杖を握りしめて、メニューを眺めていました。そのときです。「お困りなこと、ありましたか？」店員さんが、僕の顔の横から、ひよこつと、さりげなく、だけど、当たり前のように声を掛けてきました。

はっと、私はワレにかえりました。そして、何故だがホッとしました。気付けば私は、最近の自分の生活をポツポツと店員さんに打ち明けていました。妹が、なかなか新生活で友だちができず、辛そうなこと。兄として、何とかしてあげたいが、どうすることもできないこと。母も、毎日家族のために一生懸命に働いてくれて、疲れ気味な様子であること。

どうして、こんなにペラペラとしゃべってしまったのだろう。ですが、恥ずかしさはありませんでした。ただ、聞いてもらえたこと、共感してもらえたことに、感謝の気持ちで一杯でした。ドリンクと、ワッフルを頼みました。そのドリンクの持ち手には、手書きのメッセージが書き添えられていました。

「これ飲んで頑張つて！」

「きつといいことあるよ！」

にっこりした顔のイラストも、そえられていました。へなんて、カインドネスで、ハートウォーミングなサービスなんだろうか！私には、まるで背中をどつかれたように、驚きと感動に包まれました。こうしたサービスをしてくれるコーヒーショップは、他にあるでしょうか。ポイントを十個ためたら、珈琲一杯無料。季節限定のスペシャル珈琲。美味しいスイーツとのセットメニュー。これらも、確かに「特別なサービス」かもしれませぬ。

ですが、私は、こうした「特別な価値」よりも、スタバが届けてくれる「特別な価値」に、強くひかれてしまうのです。

今の世の中は、手間が掛かることは、なるべくはぶこうとします。コスパ、最強！タイパ、重視！たしかに、手間や時間を省略することは大切です。利益にも繋がります。ですがスタバはどうでしょう。いちいちお客さんに話しかけるなんて、時間の無駄ですよ？ただ、楽しそうに話しかけてくれる。お客さんに向けて手書きのメッセージを書くなんて、手間のかけ過ぎですよ？ただ、丁寧な書きかけられる。そうした丁寧さに「スペシャルな価値」の秘密があると思うんです。

じゃあ、スタバの店員さんには、お客さんが、どのような存在に見えているんでしょう。家族？友人？恋人？お金を払ってくれる人？？？神様？どれも正しく、どれも違う気がします。スタバの店員さんは、スタバで働けることを心から楽しんでると私は感じるんです。たしかに、店員さん達は、ただ働くのを楽しみたくて、働いているだけではないはず。生活するお金のため。キャリアアップの通過点として。おしゃやかなカフェで働いて注目されたいから。ですが、私には、どの店員さんも、生き生き、わくわく、輝きながら働いているように見えます。

なんだか、「あの場所と似ているな！」と、私は思います。たとえば、「UD」東京デイズニールランドと。デイズニ

ーランドのスタッフは、「キャスト」と呼ばれています。「ゲスト」に、「素敵な思い出と価値」を届けるため、マジカルなサービスを行う従業員。それが、デイズニードの「キャスト」です。実は、海を超えたアメリカでは、いくつもあるデイズニードには、ほぼ必ずといっていいほど、パーク内に、スターバックスのお店があるそうです。

スタバの店員さんも、そこで働く本当の動機は様々かもしれません。ですが、お店という「ステージ」に立つ「キャスト」として、「ゲスト」に素敵な思い出と価値を届けるために、工夫をこらして全力で笑顔を提供する。そうした姿勢に、私はスタバ・マジックを感じます。コスパ。タイパ。一人一人の特性の違い。それも確かに大切だし、「配慮」されることも知れない。ですが、「スペシヤルな価値」を、誰かに届けるため、手間ひまを惜しまず、仲間と励まし合いながら、共に頑張っていける集団に憧れます。

私も、卒業後は、世の中に貢献できる人間になりたいと思っています。志を同じくする仲間と、一人でも多く出会いたい。そして、仲間と協力して、「スペシヤルな価値」を発信できる集団の一人になりたいと思っています。